

2-3-1

遊びの中に学びがある

学習の場としての遊び学習： 子どもの楽育教具と空間デザイン

張 世宗

Chang Shin-Tsung …………… 国立台北教育大学教授



アメリカ・プラット学院 (Pratt Institute) 建築学修士、コロンビア大学芸術学修士、教育学博士、国立台北教育大学芸術及び造形設計学部教授。国立台北教育大学芸術及び造形設計学部の学部長、おもちゃとゲームデザイン研究所所長、国立台北師範学院視覚芸術教育センターのセンター長、シンガポールPractice Performing Arts School海外顧問などを担当していた。アイデア教育システムデザイン、クリエート・デザインの研究と教育の他、幼稚園と児童博物館などの学習環境のソフトウェア、ハードウェア、ファームウェアの開発と設計に従事し、国立美術館ゲーム室、永和遊芸屋など「楽育」学習空間と国内外数多くの児童ゲームショーの企画と広報に携わる。主な著作は、「楽育」(Edu-tainment)、「遊芸学」など関係論文の他、「玩・遊・戯」、「台湾伝統児童おもちゃ及び智能開発ゲーム」、「伝統科学技術とアイデア楽育」などの本、「玩物尚智」教材シリーズなどがある。

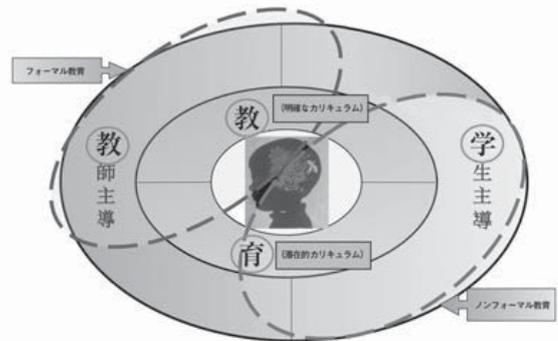
◎ インフォーマル教育の 長所について

「教」と「学」とは相反する概念であると、私は考えている。「教」とは、大人が主導する学習活動である。大人の立てた教育目標と教育計画に沿って学習活動を進めることが、子どもの「学びたい」という意思よりも優先されるため、子どもは学習活動に楽しさを感じるとは限らない。一方、「学」とは子どもが自らの「学びたい」という意思に従って行う学習活動であり、好きなことをしている時、あるいは遊んでいる時のような楽しさを伴う。

「教」はフォーマル教育 (Formal Education)、「学」はインフォーマル教育 (Informal Education) であると言うこともできるだろう。

— 図①参照

フォーマル教育では、学校教育における教師と生徒との関係に典型的に見られるように、大人は子どもに多くの知識を身につけさせることを目指す。効率を重視するため、大人の口頭での説明や子どもに配布する資料を通して、つまり、子どもの聴覚と視覚に訴えて知識を伝達する。子どもは短



図① フォーマル教育とインフォーマル教育の範疇

時間に知識を得られる半面、経験が間接的であるため、得た知識を忘れやすい。

これに対して、インフォーマル教育では、実際に体を動かしたり、手を触れたりすることを通して、子どもが主体的に知識を身につけることを重視する。子どもは知識を得るのに時間がかかるものの、経験が具体的であるため、得た知識を長く残すことができる。

● 幼児期には遊びを通して多くのことを学ぶ

インフォーマル教育の学習活動は、生活のさまざまなところに存在する。幼児期における代表例は、遊びである。幼児期は絶えず外界の影響を受けて学習する時期であり、こうした学習の多くは遊びを通して行われている。

ただ、生活の中で自然に生まれる遊びは自由遊び (Free play) であり、学習効果が高いとは限らない。そこで、大人には、子どもの自主性を尊重しながら、学びを意図した遊びを子どもが行えるように誘導することが求められる。あくまでも子どもが自然に「学びたい」と思えるように誘導するため、フォーマル教育の学習活動ではなく、インフォーマル教育の学習活動であると言えるだろう。

こうした遊びの鍵となるのは次の3つであると、私は考えている。

①遊びの選択

遊びと学習のバランスが保たれた、「有意義な遊び」を選択できるように、大人が子どもを誘導するタイプである。遊びによっては、子どもが夢中になり過ぎて、限界効果が遊びの機能効果に影響を及ぼし、有益な活動を行う機会を排除するような、不利益をもたらすことがある。大人が誘導すれ

ば、これを防ぐことができる。

②玩具・教具の開発

保育者の学習目的に応じて、効果的な学びが得られるような機能性玩具や教具が開発されれば、子どもは遊ぶ楽しさと学ぶ楽しさをともに感じられるはずである。開発にあたっては、保育者が子どものニーズを分析し、それを玩具・教具のデザイナーと共有することが重要である。

③カリキュラム

特定の教育目標のもとにカリキュラムをつくり、それに沿って適切にプログラム化すれば、遊びは、目的のある、系統化され、組織化された学習活動となる。

● 教育と娯楽を融合した新たな教育概念「楽育」

子どもが遊ぶ楽しさを感じながら、より効果的な学びができるようなインフォーマル教育の学習活動について、私は研究を続けている。そして、教育 (Education) と娯楽 (Entertainment) の2つを融合した新しい教育概念、「Edu-tainment (楽育)」を提唱するに至った。台湾では、既に多くの施設で「楽育」が実践されている。

例えば、国立美術館には、子どもが友だちと一緒に積み木などの遊具を使って遊べるコーナーを設けている。——写真①参照
遊具は全て、子どもの自発的な探索力や創作力などを伸ばせるように、幼児教育研究者が遊具デザイナーと話し合っ

て製作したものを用いている。
台北市親子センターには、映画やテレビドラマ、演劇の映像をスクリーンに映し、子どもがそれを見ながら舞台上で登場人物になりきって遊べるコーナーを設けている。——写



写真①

写真②参照 演技芸術を、子どもが体験できるようにするためである。

このように、インフォーマル教育の1つである楽育では、手を触れる、組み立てる、演じるなど、子どもが体を動かして体感できる仕組みが整えられている。聴覚と視覚による学習に偏ることが多いフォーマル教育よりも、子どもは物事をずっと具体的に、深く、そして楽しく理解できるに違いない。だからこそ、前にも述べた通り、インフォーマル教育による学習では、子どもは学習後も長く、得た知識を身につけていられるのである。

また、楽育についての研究を続けるうちに、子ども同士だけでなく、年齢が大きく異なる者同士が遊ぶことの重要性にも気づいた。子どもと親や祖父母とが一緒に遊べば、子どもは親や祖父母から経験や知恵を学び、親や祖父母は子どもに教えることで、達成感を得られる。互いに交流を深めることにもつながるため、祖父母世代の生活経



写真②

験を孫世代に引き継ぐ方法にもなると考えられる。

● 工夫する楽しさに満ちた遊びを現代によみがえらせる「遊芸屋」

現代では、多くの子どもがパソコンやiPhoneなどのハイテク機器を使って遊んでいる。もちろん、そこで得られる学びも多いだろう。ただ、ハイテク機器が現れる以前の子どものほうが、楽しくなるように自分で遊びを工夫していたように思われる。1950年代、子どもの私の遊び道具は、川原の石や森の枯れ木などばかりだったが、それらを使って遊びながら、さらに面白く遊ぶためにはどうしたらよいかを、友だちと考えていた。

このような子どもの遊び、工夫する楽しさに満ちた遊びと、幼児教育や科学技術といった多方面の知見を統合し、現代に新た

によみがえらせ、さらに充実した楽育を行うことはできないだろうか。この理想を実現するために計画されたのが、玩具の開発・展示機関「遊芸屋」の設置である。

教育界の研究仲間や支援者の協力を得て、台湾新北市永和区に「遊芸屋」第1号館が完成し、すでに営業を始めている。来場者は、展示されている玩具全てを手に取り、遊ぶことができる。——写真③参照 子どもが親や祖父母とともに遊べるようにデザインされた玩具もたくさん展示されている。

展示品で遊べる玩具の博物館は、100年以上前にアメリカで生まれ、次第にヨーロッパや東南アジア諸国に広まった。「遊芸屋」は、台湾におけるその最初の試みである。幼児から高齢者まで「children of all ages(全年齢の子ども)」の学習者が、自分の手で操作したり、創作したりしながら楽しく学べる場である。運営面などの課題を克服し、今後さらに発展させていきたい。

● 幼児教育研究者同士の 国境を超えた交流を

近年、各国の幼児教育研究者の間で、遊びを通して子どもを育てることがますます重視されるようになった。例えば、日本では小林登先生と榊原洋一先生が率いるCRN (Child Research Net) は多くの先進的研究を世に問うているし、「東アジア子ども学交

流プログラム」のような、アジアの幼児教育研究者同士の交流の場でも、遊びと学びの関係について白熱した議論が行われている。台湾では、私が楽育を提唱し、「遊芸屋」の運営に参画するようになった。

子どもに、より楽しく、より深く学んでほしい。これは、全ての幼児教育研究者の願いである。話し合いの場や理論実践の場が、国境を超えて広がっていくことを期待する。

参考文献

張世宗 (1993)。『玩・遊・戯智慧の玩具・玩具的智慧』。台北：太聯。

張世宗 (2002)。『童玩游藝與兒童文化』。于林文宝 (編) 之兒童文学与兒童文化學術研討會論文集。台北：万卷楼圖書出版有限公司。193p-229p。

張世宗 (2012)。『跨代樂育學習場域：社區型全齡博物館的研究與設計』。国立台北教育大学主催の『2012樂育樂活樂藝術与設計』国際シンポジウムでの講演。2012年12月7日。

張世宗 (2013)。『東アジア子ども学交流プログラム報告書2013』。東京：Child Research Net。論文のタイトル：從玩具到学具；从教育到樂育—童玩的游藝研究与应用。2013.3. 43p-50p。

Dewey, J. (1916). *Democracy and education*. New York: MacMillan.

Monigham-Nourot, P (1990). *Looking at Children's Play: A bridge between theory and practice*. In Klugman, E. & Smilansky, S. (Eds.) *Children's play and learning*. NY: Teachers College.



写真③